

群馬県内の多様な環境に生息するレンゲツツジの比較

平成 30 年度高校生学芸員 植物分野 山口朔矢

1、動機・目的

群馬県の県の花はレンゲツツジである。そのため県内の様々な場所に生息または植樹されている。また、私は赤城山の覚満淵のレンゲツツジと街なかの遊歩道沿いに植樹されているレンゲツツジとでは形状や色味などが異なっていると感じた。そこで、本研究では群馬県のシンボルであるレンゲツツジの生息環境の違いによる影響を考える。

2、方法

1) 調査対象

- ① 赤城山覚満淵に生息するレンゲツツジ 3 本 A1~A3 (観察可能な位置にあるレンゲツツジは 3 本のみ)

A1 N 36° 32'38.597" E 139° 11'25.109 1368m 青

A2 N 36° 32'38.519" E 139° 11'25.457 1369m 緑

A3 N 36° 32'38.105" E 139° 11'28.982 1372m 黄色

- ② ぐんまフラワーパーク内に植樹されているレンゲツツジ 2 本 F1、F2 (園内に存在するレンゲツツジは 2 本のみ)

F1,2 N 36° 27'18.159" E 139° 10'28.391 342m 赤

※位置情報はスマートフォンアプリ「GPS test」を使用

※標高は位置情報をもとに Google Earth で測定

※位置関係画像は上が北

※調査日 2018 年 8 月 11 日



図1 全地点の位置関係



図2 覚満淵周辺地点位置関係

<赤城周辺環境画像>



<フラワーパーク周辺環境画像>



2) 調査項目

①茎の太さ②樹高③ラマスシュートの有無④シュートの長さ⑤葉の大きさ⑥分枝数⑦花の有無

※長さはデジタルカメラで分析

※基本的に第三次分枝の数値を記録

<調査方法画像>

3、結果

	茎の太さ(cm)	樹高(cm)	ラマスシュートの有無	シュートの長さ
A1	2.6(3,0.41,2.6,1.6)	170	+	12
A2	0.8(3,0.28,1.3,0.7)	160	-	13
A3	1.7(3,0.25,2.0,1.4)	145	-	24
F1	2.7(3,0.82,3.7,1.7)	260	-	19
F2	1.3(3,0.22,1.5,1.0)	90	-	15

平均(サンプル数、標準偏差、MAX、min)

	葉の長さ	葉の幅	分枝数	花の有無
A1	5.9	1.9	7	-
A2	5.5	2.7	6	-
A3	6.5	3	6	-
F1	8.5	3.2	10	-
F2	10	3.5	6	-

4、考察

<茎の太さについて>

- ・平均の太さが太いほど標準偏差が大きい
- ・樹高と分枝数との間にはある程度の正の相関関係がみられた。

<樹高について>

- ・赤城の個体間の標準偏差は小さかったが (MAX170,min145)、フラワーパークの個体間の標準偏差は大きかった (MAX260,min90)。
- ・茎の太さと分枝数との間にはある程度の正の相関関係がみられた。

<ラマスシュートについて>

- ・A1 でのみラマスシュートを確認できた。
 - 画像で再度確認したところラマスシュートでない可能性が高い。
 - ラマスシュートと誤認の可能性

<シュートの長さ>

- ・他項目との相関関係は見られなかった。
- ・A3 のシュートの長さがやや長い (24 cm)
 - 樹形や密度 (日当たり) が関係しているか

<葉の大きさ>

- ・他項目との間に相関関係は見られなかった。
- ・長さと幅の比は多少のずれはあったが突出してずれている個体はみられなかった。

<分枝数について>

- ・樹高と茎の太さとの間にはある程度の正の相関関係がみられた。
- ・F1 の分枝数がやや多かった。

<花の有無について>

- ・調査日の関係で花は全個体において見られなかった。(開花時期は一般的に5月下旬～6月上旬)

4、課題

調査対象とした個体数が少なく、相関関係などがあまり見られなかった。また、地点を2つにしぼってしまい、すべてのレンゲツツジが自生ではなく植樹されたものであることが高いため、多様な環境とはいいがたかった。調査地点数、個体数、項目数を増やし、今後とも継続的に研究に取り組んでいきたい。

5、謝辞

この研究に対する多くのアドバイスをいただいた、群馬県自然史博物館の大森威宏先生には大変お世話になりました。ありがとうございました。